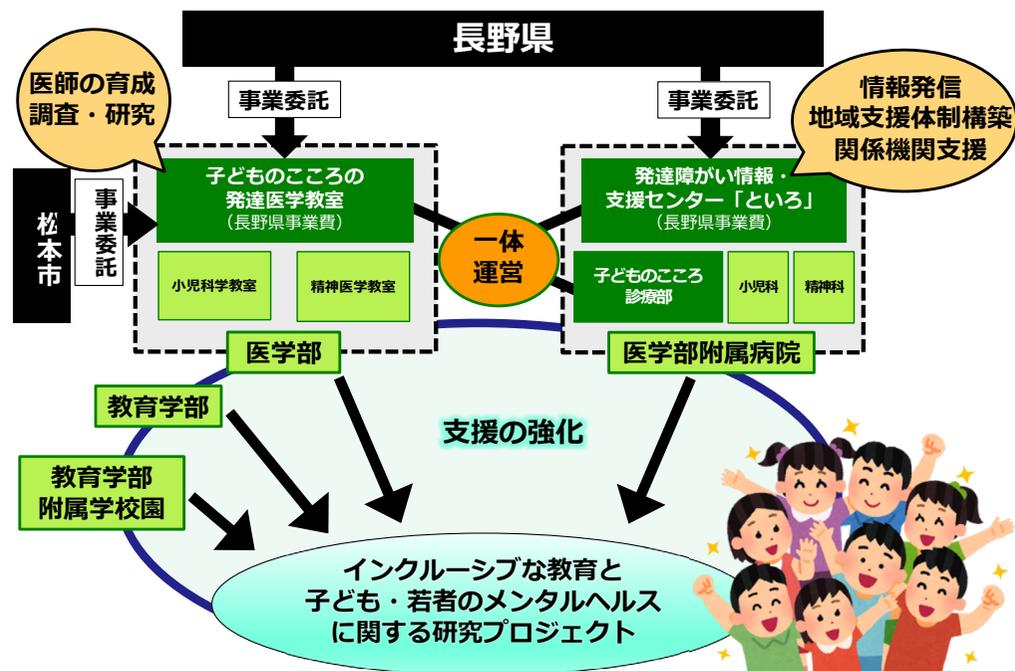


発達障害がある児者への 思春期・青年期の支援



信州大学医学部子どものこころの発達医学教室
 附属病院子どものこころ診療部
 長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」
 本田秀夫

信州大学を拠点とした長野県の発達障害児者支援



長野県発達障がい情報・支援センター「といろ」

長野県発達障がい情報・支援センター 動画ライブラリー



長野県発達障がい情報・支援センターのWebサイト内
 動画ライブラリーに今後も様々な動画が追加されます。
 ぜひご活用ください。

- 長野県が精神保健福祉センター内に設置・運営していた「長野県発達障がい者支援センター」を2023年度から信州大学医学部附属病院に委託
- 支援機能だけでなく情報発信機能を強化



長野県発達障がい情報・支援センター
 〒590-0802
 長野県松本市旭2丁目11-30 長野県松本市旭庁舎内
 電話：0263-37-2725（平日9時～16時）
 FAX：0263-37-3350
<https://naganoken-hattatsu.info/>

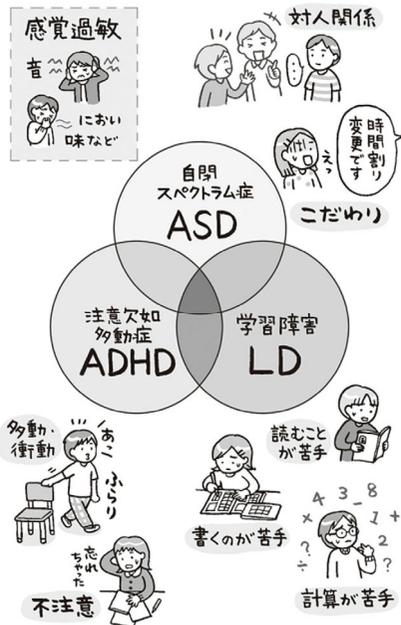


神経発達症群(発達障害)とは？

- 行動特性になんらかの特記すべき異常がある
- その異常は乳幼児期からみられ、成人後も残る
- その異常が要因となって、生活に支障をきたす



主な発達障害: ASD, ADHD, LD



(本田秀夫 (著), フクチマミ (絵) : 発達障害・「グレーゾーン」の子の不登校大全, バトン社, 2025)

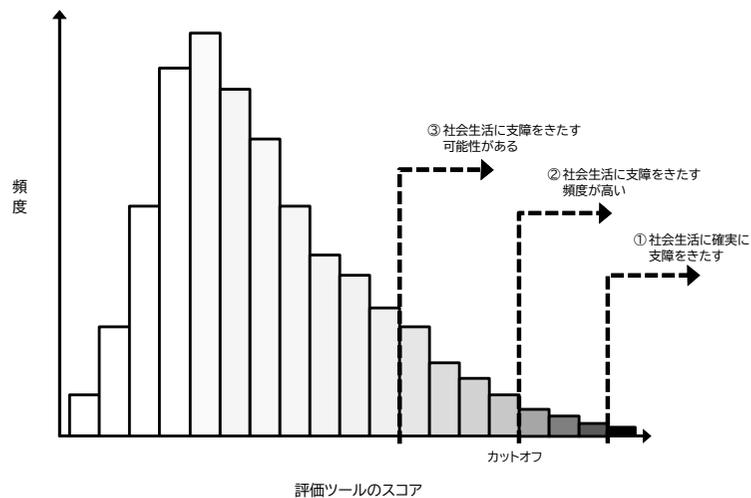
義務教育段階児童生徒のうち特別な配慮を要する割合

児童生徒の属性	割合 (%)
特別な配慮を要すると思われる児童生徒	13.0
特別支援教育を受ける児童生徒	6.3
特別支援学校	0.9
特別支援学級	3.7
通常の学級 (通級による指導)	1.7
特別支援教育を受けていない児童生徒	*6.7

*文部科学省の複数の資料から演者が計算
通常の学級に在籍：
100 (全児童生徒)
- 0.9 (特別支援学校)
- 3.7 (特別支援学級) = 95.4%
うち、特別な配慮を要する：
95.4 × 0.088 = 8.4%
うち、通級による指導を受けていない：
8.4 - 1.7 = 6.7%

(本田による試算)

発達障害の評価ツールにおける症状のカットオフと 社会生活の支障との関係のイメージ



(61歳・男性 / 長野県)
本田秀夫

グレーとは
白ではなくて
薄い黒

架空事例Aさん:45歳女性

- 言語発達は早く、就学前から平仮名、片仮名、数字の読み書きができ、いつも本を読んでいる子どもだった。
- ままごとや人形遊びが好きでなかったため、小学生の頃は女子よりも男子と遊ぶことの方が多かった。
- 車酔い、偏食、特定の模様を見ると吐き気など、感覚の異常を示唆するエピソードがあった。

Aさん:40代前半まで順調

- 交友は狭いが友だちは数人いた。成績上位で、頼まれると快くノートを貸したので、一目置かれていた。
- 大学の文学部を優秀な成績で卒業し、企業で事務の仕事をしていた。
- 25歳のときに結婚し、退職。26歳のときに女兒を出産。
- 子どもと遊ぶのは好きだったが、人形遊びは苦手。
- 「ママ友」が数名いたが、幅広い人づきあいは疲れた。
- 子どもが大学に入学後、事務のパート(週2回)を始めた。仕事ぶりは着実に信頼を得て、誘われて正社員になった。

Aさん:45歳で異変が

- 正社員になり、パートの従業員管理に負担を感じた。
- ルーズな人が気になって仕方がない。しかし細かく指摘し過ぎると相手も気を悪くすると思うと、悩む。
- 家でも考え込むことが増えた。
- 正社員になって半年ほどした頃から、中途覚醒、早朝覚醒、倦怠感、意欲低下、抑うつ気分が出現した。

生活の変化による事例化

好きなこと、やりたいこと中心の生活
興味のないことは、しなくてよい生活



興味がないのに責任を伴う生活

発達障害本来の特性とそうでないもの

本来の特性

- 対人関係・コミュニケーション・活動のパターン化・こだわり・感覚の異常（ASD）
- 多動・衝動・不注意（ADHD）
- 読字・書字・計算（SLD）
- 粗大運動・微細協調運動（DCD）

本来の特性ではないもの

- 感情・情緒の変動
- 睡眠の異常

発達障害の「症状」は、 自然経過で悪化はしない

ほとんどの場合、悪化しているのは環境との相性

- クラス替え
- 部署の異動
- 担任・上司の交代
- 教育方針の変更
- 友人の態度の変化 など

社会的少数者は ストレス因関連障害のハイリスク

- 本来は独自のアイデンティティと自己肯定感を持ってしかるべき
- しかし、多数派向けに調整された社会の枠組みの中でストレスや逆境体験に晒されるリスクが高まる

育ち方の5タイプ

- 特性特異的教育タイプ
- 放任タイプ
- 過剰訓練タイプ
- 自主性過尊重タイプ
- ハラスメント・タイプ

過保護と過干渉

過保護

子どもなどに必要以上の保護を与えること。また、そのようにされること。また、そのさま。

過干渉

干渉しすぎること。

干渉：他人のことに立ち入って自分の意思に従わせようとすること。

(デジタル大辞泉)

過保護にされて駄目になる子どもはいない

- 満たされれば満たされるほど、むしろ自立は早くなる。
- 子どもが望んでいることを親はいくらでもやってよいし、やり過ぎることはない。
- いつまでも子どもが親を頼ってくるすると、それは過保護だからではなく、むしろやりたいことを十分に満たしてこなかったから。

(佐々木正美)

過干渉は子どもの自立を阻む

- 干渉とは、やりたいことでなくやらねばならないことをさせようとする事だ。「やらねばならないこと」の多くは、実は親がやらせたいと思っていることにすぎない。
- 過干渉な親は、子どもが親の意向に沿ったときにだけ褒め、物を買って与える。子どもは他者の評価に過敏になり、自分で物を考える習慣が身につかない。
- 子どもの自主性や主体性はやりたいことの中でしか育たないので、過干渉では子どもの自立がむしろ遅くなる。

(佐々木正美)

思春期・青年期の親の関わり

よかれと思って行った親の助言は、

ほぼすべて逆効果となる

親はすっこんでろ!

子ども、教師、保護者の関係



家族関係は良好に

- 一緒に活動して楽しむ
- 子どもに自由な選択と決定の保障を
- 保護者は情報は提供するが、助言はしない

保護者や教師以外の相談相手も、時に必要

教師と保護者は密に連携を

- 保護者は子どもの様子を学校に伝える
- 可能であれば教師は子どもの助言者に
- 教師は子どもが興味をもてる活動の提案を



…進路選択の時期までに、この体制ができているのが理想！

成人期の発達障害:3通りのパターン

1. 特性に応じた育ち方をして情緒的に安定 :教育, 福祉
 - 診断されることもなく平均的な生活を営む
 - 学校卒業と同時に障害者雇用または福祉的就労
2. 逆境体験のため、情緒的に不安定 :医療, 司法, 若者サポート
 - 青年期までに精神科受診し、成人後も精神科通院
 - ときに犯罪、非行、ひきこもりなどの問題が出現
3. 就労後に課題が露見し、精神症状が出現 :労働, 医療, 福祉
 - 職場対応(休職, 異動), 離職, 転職が課題
 - 精神科受診が必要となる

「選好性(preference)」からみた自閉スペクトラム

関心

特定の物に強い興味をもつ

(反面, それ以外の物にはほとんど興味がない)

やり方

特定の手順を繰り返すことにこだわる

常同的な動作を繰り返す

ペースの維持

他者にペースを乱されたくない

過剰適応

自分が置かれた環境に合わせようとして、自分の考えや行動を合わせすぎてしまう状態。

ASDの人に見られやすい過剰適応:

- 猪突猛進 :頑張り過ぎる
- 過剰なルール遵守 :臨機応変な対応をしない
- 過剰な遠慮 :正当は主張や要求をしない
- カモフラージュ :ASDの特性を隠そうとする

発達障害の人たちの対人関係： 「できない」より「疲れやすい」

- 対人関係は、一般の人の何倍も疲れる
- 楽しく過ごしても、後から疲れを感じる
- 大人でも、仕事はよくできるのに週5日働くと疲れが取れない人がある

記憶力と想像力との乖離

記憶力

- 興味があることと体験したことは細部まで記憶して、記憶が薄れにくい
- 逆境体験をとくに強く想起しやすい

想像力

- 他者の事情、未体験のこと、これから起こりそうなことを想像することが苦手

逆説的高望み

元来のノルマ化の傾向が病的に強まった状態

「苦手な科目を克服するために大学進学して、その科目を専攻しなければならない」

「国立大学を卒業しないと、人間とはいえない」

発達障害の人の希死念慮

ちょっと動いただけでも疲れてしまう

でも、何かしていないと辛い

→ 起きていること、さらには生きていることが辛くなる

被害関係念慮

被害的だが、背景には低い自己評価がみられる

他者への攻撃性, 暴力

- 本人からの自発的な攻撃や暴力はまれ
- ほとんどは、誰かからの攻撃に対する反撃
- 特定の相手に対する攻撃・暴力がパターン化することがある
- ごくまれだが暴力に対する異常な執着を形成することがある

依存症の「自己治療仮説」

依存とは、快楽を得るためでなく、

心の傷を癒すための行為である

(E.J.カンツィアン & M.J.アルバニース)

「ニューロダイバーシティ」モデルにもとづく支援のイメージ

社会的少数者の社会参加促進

- ストレスや逆境体験に晒されることの予防
- 生じてしまったストレス因関連障害への対応
- 本人が持てる力を発揮して意欲的に社会参加するための支援

「せめてこれくらい」はNGワード！

- 「もう〇年生なんだから」
- 「高校くらい出ておかないと」
- 「自分がやりたいと言ったんだから・・・」

自己肯定感

健康的な自己肯定感は、

子どもの達成度が親や教師の期待を

上回ったときにしか育たない

支援の目標

「コツコツ」よりも「一発勝負」

「前もって」よりも「ギリギリセーフ」

「姿勢」よりも「傾聴」

本当の自立とは？

自己決定力(自律スキル)

自分でできることとできないことを判断できる

相談力(ソーシャルスキル)

できないことについて他の人に援助を求める

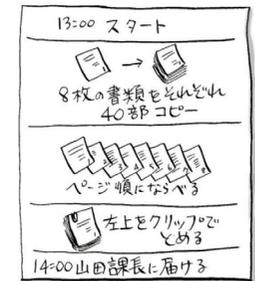


自己決定と相談を保証する「視覚的構造化」

- 「見える化」でわかりやすく
- 十分な情報をもとに自己決定
- 同意, 拒否の自由を保障
- 拒否の場合, 別の選択肢を相談
- 合意形成を通じて自己決定力と相談力が育つ

口頭での指示が理解できない

箇条書きなどにして, 本人にわかりやすい伝え方を



支援つき試行錯誤

- 共感しながら試行錯誤につき合う
- 情報提供と考えの整理は行うが, 助言は控える

相談したいこと: コミュニケーションが苦手
作業が遅い
いい仕事につけないのではないかと

プランA: いまのままでできる仕事を探す
時間はかからない
給料は安いかもしれない

プランB: コミュニケーションや作業を伸ばす
給料が高い
時間がかかる

合理的配慮

当事者が自分にメンタルヘルスの問題があることを開示し、配慮を求めてきた場合には、学校や事業所はその人たちが業務に参加できるように過重な負担のない範囲で配慮する義務があると「障害者差別解消法」で定められている。

そのような配慮のことを「合理的配慮」という。

「しなくていいこと」を決める

ASDの場合

- あいさつ、雑談
- 気配り、付度
- 周りに合わせること

ADHDの場合

- 時間厳守
- 日々の積み重ね
- 良い姿勢

合理的配慮は合意の上で

- 本人から自身の障害について説明があり、配慮をしてほしいとの希望があったときに限って行う
- 学校側が勝手に配慮してしまうと、トラブルの原因となる
- 配慮すべき点がありそうだと気づいた場合には、面接を設定などで本人に指摘し、できそうな配慮を提案し、本人の希望を必ず確認する

合理的

配慮のための

自己開示

本田秀夫

(61歳・男性／長野県)

変更することに強い抵抗感を示す

- なるべく決定したことを後から変更せずにするように、決定は慎重に
- どうしても変更せざるを得ない場合には、書面で説明すると納得が得られやすい

(本田, 2019)

感覚過敏がある

- 聴覚, 視覚, 嗅覚, 触覚, 味覚などのいずれかの感覚を鋭敏に感じ過ぎて、つらくなる場合がある
- 練習しても慣れないばかりか、より鋭敏になってしまうことが多い
- 可能な限り苦手な感覚刺激にさらされることのないよう、環境を調整する

(本田, 2019)

過剰適応への対策

- 自ら希望していないのに新しいチャレンジを促してはならない
- 方針を視覚化し、アドリブ厳禁
- 本人が無理なくてきて、意欲をもてるものだけを提示する
- ステップアップを急がない

気を遣い過ぎて疲れやすい

折に触れて、無理に我慢し過ぎていないかどうかを聞いてみる。

ADHD

- ふだんの多少のミスや抜けは大目に見つつ、本当に重要な場面だけは失敗せずうまくやることを目指す
- 薬物治療という選択肢もある

どうしても仕事をためてしまう

優先順位をつけることが得意ではないので、上司がアドバイスを



(本田, 2019)

物をなくす, 忘れる, ミスが多い

- 注意しても、どうすればよいかわからない
- 進歩を期待しても虚しく落胆するだけ
- 劇的に改善する可能性はあまりないということを、本人も周囲も共通の認識としておく
- その上で、多少は忘れ物を減らせる具体的な方法がないかを検討する
- その人なりの工夫が見つけられるとよい
- 忘れ物に気づいたときの対策(連絡の仕方など)も話し合っておく



(本田, 2019)

時間を守ることが苦手である

- キリのよいところまで終わったら、だいたいこちらが求めている時間と近いような計画を立てる
- どうしても時間に間に合わないと困る場合は、実況中継のように定期的に連絡をとり、今何をやっていて、いつ頃終わりそうか、所定の時間に間に合うためには何をすればよいか、などを確認する



(本田, 2019)

発達障害以外の精神疾患がある場合

- まずは休息を優先する
- 可能であれば家族や主治医とも相談しながら、休息の程度と期間について決める
- 本人の状態に応じた段階的な配慮を考える

字を読むのが苦手

パソコンやタブレットに文章の読み上げ機能を活用する

字を書くのが苦手

- パソコン、スマホ、タブレットなどで漢字変換してプリンターで出力する
- 板書のノート転記が難しい場合には、黒板に書かれたものを写真に撮る
- パワーポイントなどであらかじめ資料を作り、板書せずにすむようにする

計算が苦手

計算が必要な場合には、電卓などを積極的に用いる。

二次障害への対応を優先する

- 休息
- 職場・学校の環境調整
- 家庭環境の調整
- 相談支援
- 医療

二次障害の「症状」は、バロメーター

- 裏に隠れている原因を探る
- 「症状」そのものを力づくで止めてはいけない

接し方のポイント

- 先に本人の言い分を聞く
- 命令でなく提案する
- 言行一致を心がける
- 感情的にならない
- 情報を視覚呈示する
- 見えにくいことを言語（書面）で構造化する
- こだわりはうまく利用する

発達障害の人にとって 能力と収入は比例するとは限らない

能力を活用しても収入につながらない人は、

ためらわずに福祉制度を利用しよう！

障害者雇用対策（厚生労働省）

企業に対して

一定の割合で障害者の雇用を義務付け
（障害者雇用率制度）

これを満たさない企業から納付金徴収
 多く障害者を雇用する企業に対して調整金支払
 必要な施設設備費等に助成
（障害者雇用納付金制度）

障害者本人に対して

職業訓練
 職業紹介
 職場適応援助者等
（職業リハビリテーション）

障害者総合支援法における 就労系障害福祉サービス

	就労移行支援事業	就労継続支援A型事業	就労継続支援B型事業
事業概要	就労を希望する65歳未満の障害者で、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれる者に対して、①生産活動、職場体験等の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、②求職活動に関する支援、③その適性に応じた職場の開拓、④就職後における職場への定着のために必要な相談等の支援を行う。 <small>（利用期間：2年） <small>※ 市町村審査会の個別審査を経て、必要性が認められた場合に限り、最大1年間の更新可能</small></small>	通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が可能である者に対して、雇用契約の締結等による就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等の支援を行う。 <small>（利用期間：制限なし）</small>	通常の事業所に雇用されることが困難であり、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う。 <small>（利用期間：制限なし）</small>
対象者	① 企業等への就労を希望する者	① 就労移行支援事業を利用したが、企業等の雇用につけなかった者 ② 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等の雇用につけなかった者 ③ 企業等を離職した者等就労経験のある者で、現に雇用関係の状態にない者	① 就労経験がある者であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった者 ② 50歳に達している者又は障害基礎年金1級受給者 ③ ①及び②に該当しない者で、就労移行支援事業者等によるアセスメントにより、就労面に係る課題等の把握が行われている者
報酬単価	711単位（平成27年4月～） <small>※ 利用定員が21人以上40人以下の場合</small>	519単位（平成27年4月～） <small>※ 利用定員が21人以上40人以下の場合</small>	519単位（平成27年4月～） <small>※ 利用定員が21人以上40人以下の場合</small>

（厚生労働省ウェブサイトより）

「将来は

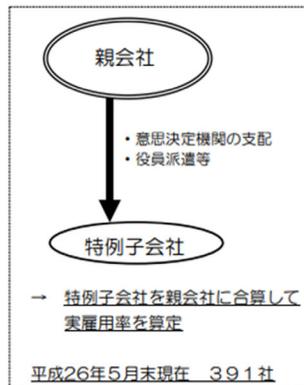
支援がない」は

パワハラだ

本田秀夫

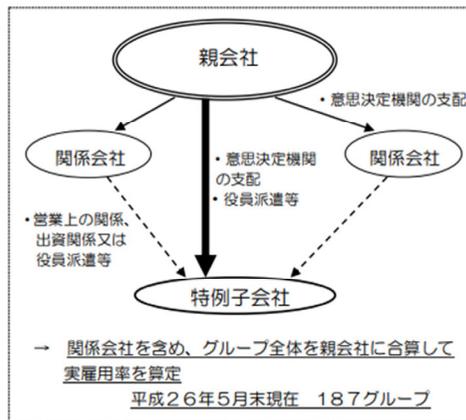
（61歳・男性／長野県）

〔特例子会社制度〕



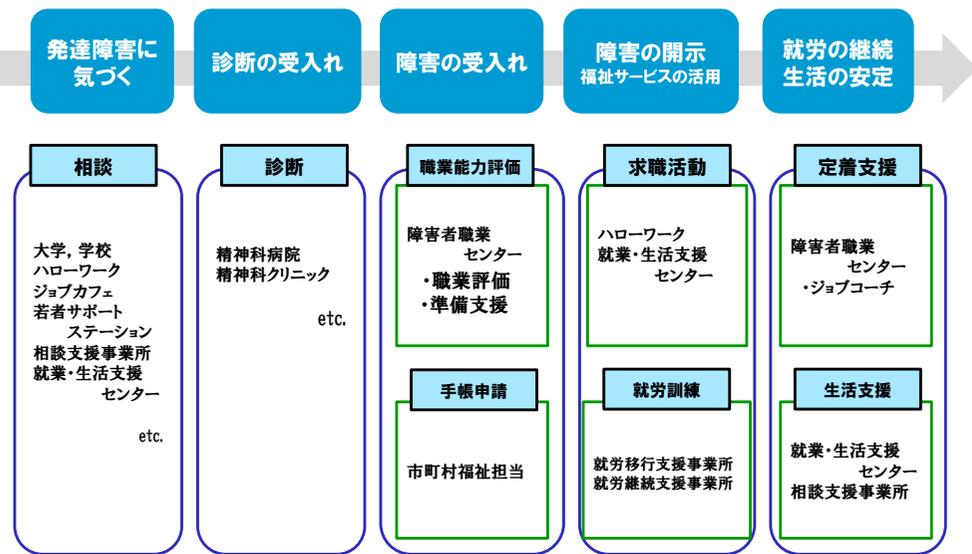
〔グループ適用〕

（平成14年10月から施行）



（厚生労働省ウェブサイトより）

「特例子会社」制度とグループ適用



発達障害者の就労支援の流れ

発達障害の人たちの就労スローガン

- 仕事は遊び半分でやれ
- 仕事は休み休みやれ
- スタートダッシュは、絶対にするな

発達障害者の就労

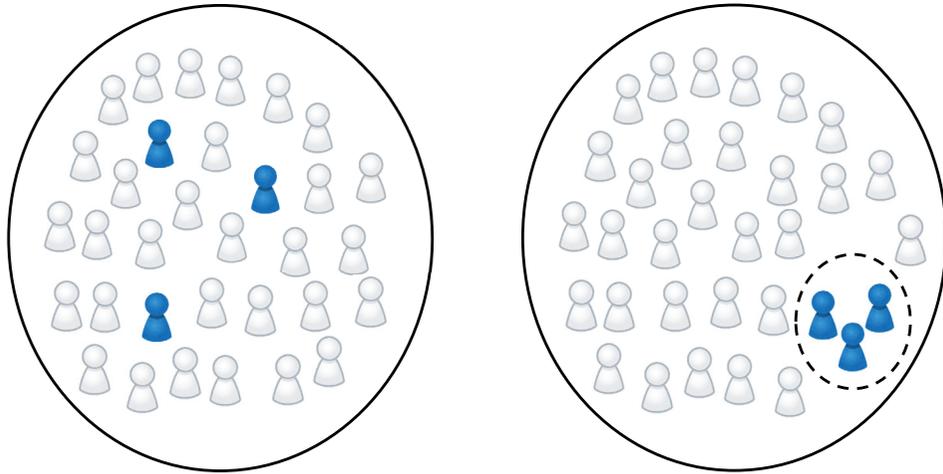
「唯一の正解」はない

柔軟な発想で「適材適所」を

成人期の発達障害者支援の課題

- 就労中心の支援に偏り過ぎている
- 発達障害の特性に特化した生活支援・余暇活動支援の仕組みが不十分
- QOL (Quality of Life) / 生きがいに関する研究が少ない

インクルーシブかつアイデンティティの保障されたコミュニティづくり



分散型

ネスティング

(本田ら, 2009)

自分がマジョリティと感じられる活動拠点の確保を！

神経発達症の特性にフィットした活動拠点があると、不適切なインクルージョンにさらされても、ダメージを最小限にとどめることができる。

「仲間づくり」のきっかけづくり

思春期以前

- 仲間をつくることは「目的」というより「結果」
- 興味のある活動を共にするうちに、結果として仲間ができる

青年期以降

- 同じ感性の仲間が欲しい
- 「あるある話」で盛り上がりたい

目的ではなく結果

- ✓ みんな一緒の方が楽しい
- ✓ 力を合わせて頑張ろう
- ✓ 絆を大切に

→ これらを目的とした集団運営では、文化背景や考え方などにおける少数者や立場の弱い人たちが阻害されることや、ときには敵視されることさえある

支援者の役割

少数派である発達障害の人たちと

多数派向けに構成された社会との

インターフェイス



2025年6月に
AIチャット機能が
追加されました！



子どもの色を、
活かす子育て

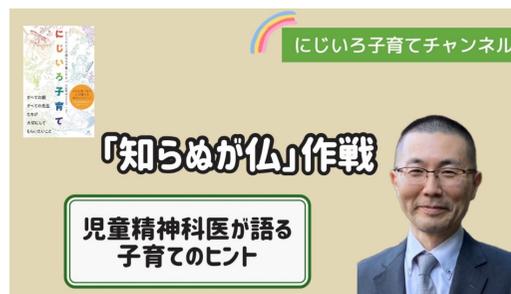
周りの子と、自分の子を比べてしまって、
不安になることはありませんか？
子どもにはそれぞれの育ち方があります。
のびのびトイロは、「個性に合わせた多様な子育て」を
応援するアプリです。



運営チーム
企画・開発・運用 ヘルスクエアデザインチーム Colonb's
月刊イクジ・まつもと 信州大学医学部子どもの発達医学教室
コンテンツ提供 信州大学医学部子どもの発達医学教室
ご支援 一般財団法人YOKA

個性に合わせた多様な子育て

すべての子どもが、個性にベスト・フィットした楽しい環
境で安心して成長できるよう、子育てと教育の文化
を変えていきましょう！



参考図書

専門家向け

「アスペルガー症候群のある子どものための 新 キャリア教育
—小・中学生のいま、家庭と学校でできること—」
本田秀夫, 日戸由刈(編著) 金子書房(2013年)

「子どもから大人への発達精神医学—自閉症スペクトラム・
ADHD・知的障害の基礎と実践」
本田秀夫(著) 金剛出版(2013年)

「発達障害の早期発見・早期療育・親支援」
本田秀夫(編著) 金子書房(2016年)

「知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック
—危ない！困った！を安全・安心に—」
西村頭, 本田秀夫(著) 中央法規(2016年)



参考図書

専門家向け

「知ってほしい 乳幼児から大人までのADHD・ASD・LD ライフサイクルに沿った発達障害支援ガイドブック」

齊藤万比古, 小枝達也, 本田秀夫(編集) 診断と治療社 (2017年)



「こころの医学入門: 医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために」

近藤直司, 田中康雄, 本田秀夫(編集) 中央法規 (2017年)



「自閉スペクトラム症の理解と支援 — 子どもから大人までの発達障害の臨床経験から」

本田秀夫(著) 星和書店 (2017年)



「おとなの自閉スペクトラム — メンタルヘルスケアガイド」

本田秀夫(監修), 大島郁葉(編集) 金剛出版 (2022年)



参考図書

専門家向け

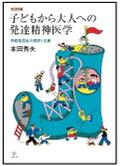
「講座 精神疾患の臨床9巻: 神経発達症群」

本田秀夫(編集) 中山書店 (2024年)



「新訂増補 子どもから大人への発達障がい精神医学 — 神経発達症の理解と支援 —」

本田秀夫(著) 金剛出版 (2025年)



「はじめてまなぶ自閉スペクトラム症 — 診断から実践へ —」

本田秀夫(著) 金剛出版 (2025年)



参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラム — 10人に1人が抱える「生きづらさ」の正体 —」

本田秀夫(著) SB新書 (2013年)



「自閉症スペクトラムがよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2015年)



「大人の自閉症スペクトラム」(DVDセット全3巻)

本田秀夫(監修) NHK厚生文化事業団 (2016年)



「なぜアーティストは生きづらいのか? — 個性的すぎる才能の活かし方 —」

手島将彦, 本田秀夫(著) リットーミュージック (2016年)



参考図書

一般向け

「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本 — 幼児・小学生編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)



「自閉症スペクトラムの子のソーシャルスキルを育てる本 — 思春期編」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2016年)



「ADHDの子の育て方のコツがわかる本」

本田秀夫, 日戸由刈(監修) 講談社 (2017年)



「ひとりひとりの個性を大事にする にじいろ子育て」

本田秀夫 講談社 (2018年)



参考図書

一般向け

「発達障害がよくわかる本」

本田秀夫(監修) 講談社 (2018年)



「発達障害－生きづらさを抱える少数派の『種族』たち－」

本田秀夫(著) SB新書 (2018年)



「最新図解 女性の発達障害サポートブック」

本田秀夫, 植田みおり(著) ナツメ社 (2019年)



「あなたの隣の発達障害」

本田秀夫(著) 小学館 (2019年)



参考図書

一般向け

「『しなくていいこと』を決めると、人生が一気にラクになる－精神科医が教える『生きづらさ』を減らすコツ－」

本田秀夫(著) ダイヤモンド社 (2021年)



「子どもの発達障害－子育てで大切なこと、やってはいけないこと－」

本田秀夫(著) SB新書 (2021年)



「学校の中の発達障害－「多数派」「標準」「友達」に合わせられない子どもたち－」

本田秀夫(著) SB新書 (2022年)



「10代からのメンタルケア『みんなと違う』自分を大切にする方法」

本田秀夫(著) KADOKAWA (2023年)



参考図書

一般向け

「マンガでわかる 発達障害の子どもたち－自閉スペクトラムの不可解な行動には理由がある－」

本田秀夫(著) フクチマミ(マンガ) SBクリエイティブ (2023年)



「知的障害と発達障害の子どもたち」

本田秀夫(著) SBクリエイティブ (2024年)



「発達障害の子どもの育ちを支える」(福祉ビデオシリーズ)

本田秀夫(監修) NHK厚生文化事業団 (2024年)



「発達障害・『グレーゾーン』の子の不登校大全」

本田秀夫(著) バトン社 (2025年)



参考図書

一般向け

「児童精神科医が語る あらためてきちんと知りたい発達障害」

篠山大明(著) 慶応義塾大学出版会 (2023年)



「かがやけ！なないろキッズ－発達障害すくすくサポートアドバイス」

新美妙美(著) 信濃毎日新聞社 (2022年)



法人・事業所向け

「発達障害－職場における理解と支援－」

本田秀夫(監修) ライズファクトリー (2020年)

